

平成28年10月〇〇日

学校だより
第〇〇号

「はなふさ」

北九州市立花房小学校・安屋分校
〒808-0108 若松区小竹 2227
Tel 093-791-0544
校長 加来 和久

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

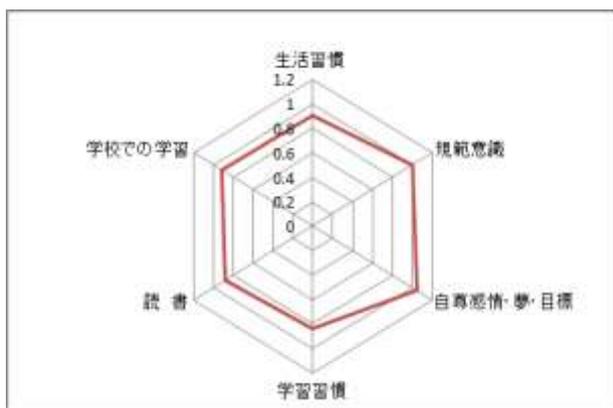
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む、書くことはできるようになってきている。書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	下回っている
国語B	話の意図を捉えながら聞いたり、目的に応じて話したりすることに課題がある。長文に慣れ、聞かれていることや必要なことは何かを判断する力が必要である。	下回っている
算数A	数と計算領域の問題を解く力は取組の成果が少しずつでているようである。他の領域についても定着を図る必要がある。	下回っている
算数B	応用問題に対して、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むことができるようになっているが、式の意味を解釈し、記述していく問題等に課題がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・テレビ等の接触時間は、若干減少し、3時間以上の長時間の利用の割合も減少した。
- ・「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童は、全国より高い。それぞれの夢を実現させるために、また人の役に立つ人間になれるように具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。
- ・毎日同じくらい時刻に寝たり起きたりしている割合が全国に比べ低い。規則正しい生活を心がけるよう指導を継続していく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・火、水、金の朝8：35～8：50は、スキルアップタイムとして、国語・算数の基本問題に取り組ませる。
- ・一単位時間中、必ずめあて、まとめ、振り返りを設定する。また、話し合い活動を多く取り入れる。
- ・特に算数科においては、少人数教員を中心に、各学年に計画的に入り、習熟度を考慮した指導に努める。
- ・若年教諭を中心に、学力向上推進教員の指導を受け、日々の授業経営に生かす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・宿題のスタンダード化（学年×10）時間程度の課題を出す。また、高学年を中心とした自学ノートに取り組ませる。
- ・家庭学習の必要性や早ね、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣の大切さについて学校・学年通信やPTA理事会、学校保健委員会等で、保護者への啓発を図る。
- ・小中で話し合っ決めた「家庭学習の手引き」「学習規律」を保護者に配布し、小中で足並みを揃える。中学校入学前は家庭学習帳を配布し、春休みの宿題とする。